

千鷲会創設40周年記念行事

千鷲会副会長 田中博美

準備から実施までの振り返りが次の50周年の参考にできれば幸いです。

令和3年12月の役員会で、コロナ感染下の翌年創設40周年記念行事を行うか見送るかを議論、中止を視野に入れた準備をする事に決定した。

令和4年4月20日執行部会議にて、総会は対面で行うが懇親会は中止、併せて40周年記念行事の準備プロジェクトチームの立ち上げと各担当者を決定した。

リーダー・田中副会長
取りまとめ・電事務局長
米満事務局長
感謝状・福田総務部長
記念植樹・渥美広報部長
祝賀会・畑田副会長

▲第1回会議5月18日
30周年を参考に記念植樹、感謝状贈呈式、祝賀会を実施行事とし、会議を毎月1回開催、新たなメンバーとして松倉理事、佐藤理事、新保理事、島本理事も参加、オブザーバーとして佐藤会長、森田副会長の出席を申し合せた。

▲第2回会議6月15日
松倉理事担当で、記念式典の式次と会の歴史のしおりを作成し、渥美部長が制作したクリアファイルに納め、全会員に配布する事業を追加した。

行事の実施時期を決定するため、基地に記念行事説明に伺うこと、千鷲会だよりに40周年にちなむ投稿を複数会員に依頼することを確認した。

▲第3回会議7月20日
千鷲会の活動を紹介するスライドショーのDVD作成状況を作成担当の新保理事が説明、紹介する写真の提供を関係者に依頼した。

▲第4回会議8月10日
記念植樹式は10月6日基地内航空機展示広場横記念式典は11月26日ANAクラウンプラザホテルに決定した。

▲第5回会議9月21日
植樹式会場の現地確認結果を元に実施要領の審議、メンバー相互の意思疎通ためライングループを構成、しおりとスライドショーの写真の収集を促進、基地新聞からの転写も考慮に入れる。

▲第6回会議10月19日
祝賀会はノンアルコールと決定、記念式典と祝賀会の実施要領と役割分担を決定し会員に協力を依頼した。

11月6日、道内のコロナ感染者が増加傾向にあり会員の参加が低調であるものの、記念式典は予定どおり実施するとの会長決心。

▲第7回会議11月16日
役員会と同時に開催役員に対して準備状況等を報告 式典実施要領・

次長が何度も基地を訪問、広報室には記念植樹支援のほか、記念式典と祝賀会の基地への案内窓口を担って頂いた。

▲10月6日記念植樹式実施、基地司令以下主要幹部と2空団准曹士先任、千鷲会会長、朝倉相談役、役員、地区幹事他が参加、晴天に恵まれたこと植栽をお願いした栄光造園さんの万全の準備と的確な式の建付けに加え、松倉理事による絶妙な司会進行より滞りなく終了した。

また、植樹の由来が分かるように「千歳基地OB会千鷲会創設記念植樹」と記した銘板を設置、松倉理事は制作にも尽力。

▲第6回会議10月19日
祝賀会はノンアルコールと決定、記念式典と祝賀会の実施要領と役割分担を決定し会員に協力を依頼した。

11月21日しおり完成、申し分のない出来栄え、松倉理事抜きでは実現困難であったのが実状。

細部実施要領の修正、この修正は、当日まで数回にわたり行った。



銘版を囲んで

植樹する千鷲会会長と基地司令

参加者で記念写真

式典実施要領・役員会と同時に開催役員に対して準備状況等を報告

11月22日には、持ち込むPCやDVDとホテルの機器との相性を確認、式典当日の11月26日午後4時関係者が集合し、最終打ち合わせ。

感謝状贈呈のリハーサルでは、会長以下の関係者が立ち位置や事務局長が読み上げる授与対象者の紹介や本文読み上げと授与タイミングを確認。



祝賀会

挨拶する千鷲会会長

授与業務を会員と広報室員4名が支援、会員や現役の隊員が参集するので万全の感染対策、最高齢は昭和9年生まれの子岡会員。

黙食、ノンアルコール、ピンゴゲーム大会等の余興なしで盛り上がりをおこなうのはと危惧していたが、配食のタイミ

の機器との相性を確認、式典当日の11月26日午後4時関係者が集合し、最終打ち合わせ。

感謝状贈呈のリハーサルでは、会長以下の関係者が立ち位置や事務局長が読み上げる授与対象者の紹介や本文読み上げと授与タイミングを確認。



千感謝状を贈呈された会員

物故会員
10月 粟崎 光孝 (栄町)
10月 伊藤 雅章 (富丘)
11月 工藤 恒男 (梅が丘)
12月 鈴木 雄二 (桂木)

各紹介
12月 野田 章悟 (北2作) 新入会

最後に、共に苦労したプロジェクトメンバーの打上げが出来なかったことが心残りであった。



森田副会長の三本締めで閉会

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

千鷲会の会員数 (1月15日現在)
正会員 458名
賛助会員 16社
個人 15名